



## 作文3部

### 農家に生まれて

仙北市立松木内中学校 一年 安達優馬

「うめえ、うめえ、やっぱり塩むすびが一番だなあ。」

じいちゃんは満面の笑顔を浮かべて大きな塩おにぎりをほおばります。農作業の後、みんなでご飯を食べる時がとても楽しいです。僕の家は農家です。小学校の頃、田植や稲刈りの時期になるとよく手伝いをしました。

カエルの鳴き声や気持ちよさそうに空を飛んでいる赤とんぼの下での作業はとても楽しく、時間を忘れ、日が暮れるまで熱中して手伝っていたことを覚えています。

もつと小さい保育園児だった頃もおおじっちゃんやおおばっちゃんや畑や田んぼに行って手伝いをしました。取り立てのきゅうりやトマトのおいしさは今でもはっきり覚えていています。

僕の家では毎年秋、家族全員でジャガイモの収穫をします。片手で握れない位の大きなものやピンポン球くらいの小さなものまでたくさんジャガイモが穫れます。その量は家族が一年間食べても余る位です。

野菜があまり好きでなかった僕が、農業の手伝いをするうちにその新鮮さやおいしさを知るようになりました。

農業は天気がとても影響します。今年、日本中のあちこちで、大雨の影響のため、田畑が全滅している映像がテレビに映し出されました。農家の大変さを知っている僕は心が傷みました。僕の家でも何年前か前、大雨のため田畑に大きな打撃を受けたことがありました。しかし、おおじっちゃんはおおばあさまはあきらめず、せっせと田畑の修復のため、力を注いでいました。その姿は、とてもかっこよく

見えました。今は、高齢のため、おおじっちゃんとおおばあさまは農業はしてませんが、その姿から農業のすばらしさや野菜やお米が、農家の人たちの多くの苦労や努力によって作られていることも学んだ気がします。

今、進んで農業をやるうという若い人は少ないと言われます。確かに農業は天候に左右されるし、朝早くから晩まで作業が続くかなりの重労働です。大きな災害が起きると壊滅状態になることもあります。リスクが大きすぎる仕事なのです。

農業の魅力をどう伝え、後継者を確保していくかがそれぞれの地域の課題かもしれません。

僕たちの住んでいる地域は山々と田んぼに囲まれています。交通の便も良いとは言えません。この地域を訪れる人も少ないです。なんとか田んぼアートで観光客を呼び込もうと地域の方々に田植も行っています。僕も小学校の頃体験しました。

種類の違う苗を植え、夏には田んぼに大きな絵が浮かび上がります。内陸線から眺めるその光景は圧巻です。広い田んぼがあるからこそできる地域のパフォーマンスです。その田んぼアートも秋には見事な穂が実り、おいしいお米へと変身します。

どのような形でも地域や農業を大切でできているので、すばらしい試みだと思っています。

現在、僕の家では、それぞれが忙しく、日中は家族全員がそろうことはなかなかありません。僕も、中学生になり、勉強や部活動で忙しくなりました。そんな状況の中でも、夕飯の時だけは、全員一緒に集まるようにしています。

じっちゃんやおおじっちゃんがお作りの新鮮な野菜やお米を食べながら今日もあつた出来事を話します。いつもとりとめのない内容ですが、笑いが絶えません。この時間が家族にとって一番幸せなひとときです。僕は将来、農家を継ぐかどうかはわかりません。しかし、何かの形で農業に携わる仕事を考えています。

みんなで食べる野菜やお米がおいしく感じるのには、新鮮さだけが理由ではないような気がするのです。